

102 鳥取県高P連会報

Contents

- 鳥取県立美術館館長講演会・研究大会アンケートまとめ 1~2
- PTA活動紹介
境高等学校・智頭農林高等学校 3
- 第45回近畿高等学校総合文化祭 4~5
- 令和7年度各地区連絡協議会活動報告 6~7
- 第74回全国高等学校PTA連合会大会 三重大会
第4分科会レポート 7
- ハイスクール24のご案内 8



みなさん、こんにちは。本日は、鳥取県立美術館の誕生と、その活動の根幹をなす「4つの役割」についてお話しいたします。

私たちの美術館は、何もないところから突然生まれたわけではありません。出発点は、鳥取県立博物館の美術部門です。自然・歴史・美術を一体的に扱ってきたその中で、美術の展示や収集が次第に充実し、専門館として独立する形で、新しい美術館が構想されました。鳥取県立博物館は1972年に建設され、半世紀にわたって県民に親しまれてきましたが、作品を守る収蔵庫は手狭になりました。そうした課題をきっかけに、「これからの時代にふさわしい美術

講演会

美術館の4つの役割と、鳥取から広がる文化の力

鳥取県立美術館 館長 尾崎 信一郎 氏



館とは何か」という問いが生まれたのです。

その議論の中で、県は「県民とともにつくる美術館」を掲げ、PFI方式という官民協働の形を選びました。県が作品の収集・研究・展示といった専門部分を担い、民間事業者が運営・広報・サービスなどを担当します。公と民がそれぞれの強みを生かし、柔軟で持続可能な運営を目指す新しいモデルです。建築設計は世界的建築家・横文彦氏。自然光がやわらかく差し込み、どの世代の方にも開かれた明るい空間が生まれました。



さて、美術館の4つの役割についてお話ししましょう。

第一は**収集と保存**です。美術館の根幹は、優れた作品を未来へ受け継ぐことにあります。鳥取県ではこれまで、前田寛治や辻智堂、池田遙邨といった郷土ゆかりの作家の作品を中心に収集してきました。新館では、

地域と世界の美術を並行して紹介し、鳥取という土地から見える「日本と世界の芸術のつながり」を示していきます。作品を安全に保存する最新の収蔵庫や気候管理システムも整備され、50年先、100年先まで作品を守る体制を築いています。

第二の役割は**調査と研究**です。作品の背景を掘り下げ、作家の思いや時代性を読み解くことが、美術館の知的基盤です。学芸員が日々作品と向き合い、研究成果を展覧会やカタログ、講演会を通して発信しています。たとえば、地元作家の作品を改めて調査することで、これまで知られていなかった創作の広がりが見えてくることもあります。美術館は、地域の芸術史を記録する学問の場でもあるのです。



【発行】

鳥取県高等学校PTA連合会 〒680-0846 鳥取市扇町21 (県民ふれあい会館内)
TEL/0857-27-0730 FAX/0857-27-0739 E-mail/tori-kop@gamma.ocn.ne.jp
バックナンバーはホームページでご覧いただけます。https://tottori-koupren.com/





第三は**展示と公開**です。作品は収蔵庫の中に眠らせるためにあるのではなく、人と出会ってこそ意味を持ちます。新しい展示室では、自然光を生かした柔らかな照明のもと、作品一つひとつの表情を感じられる空間をつくりました。テーマ展示や特別展では、ピカソやウォーホルなど世界的巨匠の作品を通して、鳥取の作家たちとの対話を試みるなど、多彩な企画が行われています。

そして**第四の役割が教育と普及**です。芸術は決して一部の人のものではありません。美術館は、子どもから高齢の方まで、誰もが創造と感動を共有できる場所であるべきです。私たちは、県内すべての小学4年生を対象に「発想体験授業」を行い、実際に作品に触れ、感じ、考える機会を提供しています。子どもたちが「本物」と出会うことで育まれる感性こそ、地域の文化を支える力になると信じています。

この4つの役割を貫く理念が、「開かれた美術館」です。美術館は、作品を展示するだけの静かな場所ではなく、人と人が出会い、語り合い、新しい価値を生み出す場であるべきです。県民が気軽に立ち寄り、



アートを通して自分の生活や社会を見つめ直す。そんな時間が生まれることを願っています。

鳥取県立美術館は、地域とともに育つ美術館として、これからも挑戦を続けます。過去を大切に守りながら、未来をつくる。芸術の力で、人の心と地域の文化をつなぐ拠点でありたいと思います。どうぞ、これからの活動にも温かいご支援をお願いいたします。

美術館研修アンケート

美術館からのお話はいかがでしたか。県立美術館への想い、学んだこと、感想等

- ・オープンネスというコンセプトで、実際に気軽に訪れることができる美術館になっていることに県民としても嬉しく誇らしく思った。
- ・設立の際の貴重な話や、展示されている作品の見どころ等、普段聞けない話が聞けてよかったです。
- ・学芸員さんのお話を聞かせてもらうのも初めてで、見所を覚えていただけ、テレビのなんでも鑑定団を体験してよかった、感激しました。
- ・館のコンセプトや企画展の見所がよくわかった。開かれた美術館を目指していることが伝わった。
- ・美術館を中心にオープンネスの高い人と低い人が混在する自由な空間がこの先も在り続けるといいなと思いました。
- ・美術館の成り立ちを説明いただけて、分かりやすく、興味深く伺いました。花鳥画の説明が楽しかった。
- ・鳥取県立博物館からの美術部門の独立開業のお話を興味深く聴かせていただきました。
- ・開かれた美術館との印象を強く受けました。
- ・鳥取にゆかりのある芸術家の方が結構おられる事を知って、作品を見るのが楽しみになりました。

館内見学ツアーに参加して、最も心に残っていることは何でしたか。

- ・きれいで開放感があって素晴らしい施設でした。館内の説明もわかり易くて良かったです。
- ・解放感溢れる美術館の概念が変わる施設だった。またの機会に家族を連れてゆっくり観覧したい。
- ・1階のカーブのついた窓やテラス、そして外の景色との融合がとても素敵でした。
- ・開放的な建物で、気軽に立ち寄ることが出来るのはとてもいいことだと思いました。芸術に触れる機会が増えていいと思いました。

PTA活動紹介

境高等学校

本校は、昭和15年、鳥取県立境中学校として創立し、今年で85周年を迎えた歴史と伝統のある境港市唯一の普通科高校です。現在、1学年5クラスで540名が在籍しています。

【B】部活動による人間力の伸長
 【I】生きる力(探究力)の育成
 【G】学力の向上と進路実現の3つを柱として「BIGに育てー境高生」をスクールビジョンに掲げ、心身ともにたくましく、学業だけでなく運動部や文化部活動、加えて探究活動など様々な分野に全力で努力することを求めています。

PTA組織は、会長、副会長、会計監査と総務部、指導研修部、広報部、人権推進部の4つの部で構成されています。総務部は、体育祭でのバザーの企画運営や保護者向けの大学視察、生徒部合同の卒業式フォトスポット製作、境港総合技術高等学校とのPTA交流会



体育祭バザー

の企画などを行います。指導研修部は、教育懇談会の運営、合同通学指導(あいさつ運動、ヘルメット指導)や生徒合同清掃活動の企画を行っています。広報部は、年4回の広報誌発行に伴い、

体育祭など学校行事での写真撮影と写真選考を行い保護者目線で楽しんで見ていただけるように編集をしています。人権推進部は、PTA人権教育研修会の企画運営や各種研修会へ参加しPTAへのフィードバックを行います。



大学視察研修

本年度は新たな試みとして、例年参加者の確保に苦慮している人権推進部の「PTA人権教育研修会」と、役員のみ対象者の総務部企画の「境港総合技術高等学校とのPTA交流会」を合わせて開催いたしました。

これにより、研修会の参加者増に繋がり参加者同士の交流が深まり、両校PTAの関係性はより強固なものになりました。

最後に、PTA活動は「やらされている」のではなく、我が子が通う学校がより良い環境になるよう、自らが楽しみと喜びを見つけ行動ができる境高PTAを目指しています。

(文責/会長 吉井 巧)

智頭農林高等学校

智頭農林高等学校は、農林業の専門高校として、昭和16年の創立以来、80年以上にわたり地元可愛され、支えられてきた学びの場です。令和6年度までは「ふるさと創造科」「森林科学科」「生活環境科」の3科でしたが、令和7年度の入学生から「生産科学科」と「森林科学科」の2科に再編されました。

生徒たちは、自分のやりたいことを見つけ、日々目標を持って積極的に活動に取り組んでいます。ふるさと創造科では、毎月1回、町内の空き店舗で開催する「ちのりんショップ」で農産物や加工品の販売を行って、地域の私たちと交流し、豊かな人間関係を築いています。森林科学科では、曲げわっぱや格子戸などの製作とおして、木材加工技術の習得に励んだり、演習林でチェーンソーや重機を使った実習を行い、安全かつ精度の高い技術を身につけています。また、生活環境科では、藍染め実習等とおして、地域の伝統産業を学んだり、住環境に関する基礎的な技術を高める学習に取り組んでいます。

PTA組織は、会長、副会長、監査で構成され、指導部、研修部、広報部、人権教育部の各部長が副会長を兼任して活動しています。指導部では年2回、生徒や先生と一緒に生徒玄関前に立つて朝のあいさつ運動を実施しています。研修部ではPTA進路研修会を開催し、

進学や就職に関する理解を深めています。また、広報部では広報誌である「楓ヶ原通信」を年3回発行し、人権教育部では毎年開催される公開人権教育LHRに合わせて人権教育研修会を実施しています。



PTA進路研修会

とりわけ、毎年11月の農林祭への協力を活動の柱としており、農林祭終了後には、生徒と先生に200食分のカレーライスを振る舞っています。活動は保護者と先生がそれぞれできる範囲で協力し、準備から配膳・片付けまで手分けをして、気楽に無理なく活動しています。

「子どもたちのことを第一に考える」保護者(P)と先生方(T)が相互に協力し合い、このいい活動の流れがさらに良いものになっていくよう努めてまいります。



農林祭でのカレーライス作り

(文責/会長 畠田 浩)





届ける 輝く 繋ぐ 流る

星空 文化 絆 流る

第45回近畿高等学校総合文化祭

☆2025年11月15日(土)～23日(日)までの9日間、鳥取県内において第45回近畿高等学校総合文化祭が開催されました。近畿10府県からおよそ5000名の生徒が各部門で素晴らしい演奏、演技、発表を披露しました。



来場アンケート

ご来場されて、感じられたことをお書きください。

- ・書道パフォーマンスが良かった。(書道)
- ・すごく良かった！想像以上です！
- ・これまで取り組んで来られた成果を存分に発揮されていました。私たちが元気をもらいました。(開会式)
- ・言葉ではいい表せないほど素晴らしいかったです。生徒さんひとりひとり輝きに満ちていました。ずっと感動しっぱなしで涙しました。ここまでの大舞台で生徒の皆さんの堂々と立派な姿をみて、私自身励まされがなばろうと思えました。(開会式)
- ・高校生のエネルギーの凄さを改めて感じました。そして、文化は言葉はなくとも伝わるものがあると、感じられることがあり、繋がるものがあると、改めて文化芸術の凄さを感じました。(日本音楽)
- ・他校の生徒と一緒に演奏したり、他校の学校の演奏を聴けたりと、生徒にとっても保護者や観客にとっても大変貴重な体験ができ、忘れられない思い出となりました。(吹奏楽)
- ・実行委員をされている生徒さんたちの、頑張り笑顔に熱い言葉に本当に感動しました。
- ・高校生の力がそりい見応えがありました。(写真)
- ・写真を拝見しました。こんな構図やアイデアがあるのかと驚きました。(写真)
- ・開会式では、鳥取の魅力を他県の方々に伝えることができ良かったと思います。
- ・マーチング、パトンは日頃の練習の成果を発揮し、とても素晴らしい演技でした。感動しました。(マーチング・パトン)



マーチング



吹奏楽部門



美術工芸



演劇部門



総合開会式



総合開会式



各地区連絡協議会活動報告

西部

西部地区では、PTA会長・校長研修会を10月11日に米子東高等学校で開催しました。

「身近な最新技術を体感する」を研修テーマとし、今後さらなる進化と利用が想定される無人航空機（以下、ドローン）に関する座学と操縦体験を実施しました。

講師に米子市を拠点として中四国エリアを中心にドローン事業を展開されているO. F. T合同会社代表の小田斉氏を迎え、ドローンについての基礎知識と利用事業例を説明いただきました。

小田氏は営利事業だけでなく、災害発生等の緊急時に稼働する鳥取県ドローンレスキューユニットの一員として、また日本ドローンサッカー連盟の山陰地区の代表として活躍されており、ドローン技術を多角的かつ幅広い世代に普及されています。

操縦体験では、ドローンサッカー鳥取県代表の中学生による模擬飛行を観覧した後、実際に操縦を行いました。操縦の難しさを感じながらラジコン世代の私た



ちにとつて重心に帰るノスタルジックな時間となりました。米子工業高校PTA・赤松会長、見事な操縦でした！日常生活におけるドローンの利活用が進む中、元来ドローン技術が軍事目的で開発されたものであり、今日世界各地で軍事投入されている事実を認識し、利便性の裏に潜む危険性を実感する意義深い研修となりました。

自らが知り、考え、必要な情報を子どもへ伝えることが、この研修会の醍醐味だと感じています。

研修会後の懇親会では、参加者全員にそれぞれの時事ネタを発表いただき、つながりが深まる楽しい時間となりました。

継続こそ力なり。次年度以降も主管校が無理のない形でこの研修会が開催され、西部地区高P連の輪の拡がり地域教育力向上が成されることを期待しています。

(文責 西部地区高P連事務局)



中部

令和7年度の中部地区高等学校PTA連合会は、5校中4校でPTA会長が交代し、新体制でスタートしました。

当会の運営は、年3回の校長会・PTA会長会を通じて、事業計画や活動状況などについて話し合っています。全体で話し合う前には、校長会とPTA会長会に分かれて各校の情報交換を行い、連携を密にしています。

7月4日の交流会では、昨年に続きパリ2024パラリンピック競技「ボッチャ」を実施しました。優勝決定戦まで全てのゲームが白熱し、各校の役員との交流も大いに盛り上がりしました。その後の交流会でも、各校の様子について意見交換が行われました。

7月11日には、鳥根県松江市で開催された中国・四国地区高等学校PTA連合会大会に参加し、中部地区全体で27名がバスで移動しました。

「中部は一つ」という意識のもと、毎年中部地区全体で行動しています。コミュニケーションの活性化は情報共有のしやすさにもつながり、事業活動を協力して進めることができます。



中部地区研修会

は、近年は同地区内の魅力再発見などをテーマに実施してきましたが、今年度は県PTA連合会の研究



大会の準備・運営を各校と協力して行うことに変更しました。研究大会では、県立美術館館長の尾崎様によるご講演をいただき、講演終了後は県立美術館に会場を移して企画展と常設展を視察しました。講演の後での鑑賞だったため、細部の表現の違いなど、これまでとは異なる視点で作品を鑑賞することができました。



活動を通じて、役員同士のコミュニケーションがさらに深まり、各校が抱える課題や取り組みについても率直な意見交換ができています。今後中部地区5校が連携して活動を進めてまいります。



(文責 中部地区高P連事務局)

東部

東部地区では、県立高等学校のPTA会長と校長とで行う研修会を例年春と秋に開催することから「春秋会」と称しており、東部地区の高等学校9校が持ち回りで運営を担当しています。

春の春秋会では「東部地区高等学校PTA連絡協議会総会」とも位置付けて開催し、秋の春秋会では施設見学や授業見学を行うとともに、年によっては実地体験などを併せた趣向を凝らした内容として開催しています。

今年度は、春の春秋会を5月20日(火)に開催し、令和6年度の事業報告と決算報告、令和7年度の事業計画と予算案について協議、決議しました。

その後に行った情報交換会では、学校と保護者の情報共有・連絡方法として使用していた「マチコミ」に代わる連絡ツール「さくら連絡網」を導入した学校から、新たな保護者連絡網の使用方法、性能等が紹介され、参加者全員で意見交換を行いました。

また、役員改選では、副会長に原田晋一氏(鳥取東高等学校校長、監査に青木俊憲氏(岩美高等学校PTA会長)及び畠田浩氏(智頭農林高等学校PTA会長)の選出が確認されました。

また、11月13日(木)には、鳥取



春の春秋会

市浜坂の建設技術実証フィールド(鳥取大学乾燥地研究センター内)を会場として、「秋の春秋会」を開催しました。県庁県土整備部職員の説明の後、各企業のブースを回りながら、実際に重機を使って土を均す様子をモニターで観察したり、企業の方の説明を受けながら、実際に重機を操縦する体験をしたりしました。

参加した学校長・PTA会長からは、「本校の生徒にも体験させたい」「生徒がこのような体験をしたら、建設業界へのイメージが変わるのではないか」等の感想があり、大変好評でした。



建設技術実証フィールド園の見学

その後の協議・情報交換では、令和12年度開催予定の全国高等学校PTA連合会大会の検討状況について確認した後、各校のPTAへの加入状況や食堂の状況等について、意見交換が行われました。さらに、今年度も教育懇談会を開催し、学校間の活発な交流の中、親睦を深める有意義な会となりました。

(文責 東部地区高P連事務局)

第74回 全国高等学校PTA連合会大会 三重大会 第4分科会レポート



「聞かせてレモンさん 持続可能なハッピーPTA」

2025年8月21日、三重県で開催された第74回全国高等学校PTA連合会大会・第4分科会には、全国から多くのPTA関係者が参加しました。司会は前年度三重県立桜花高等学校PTA会長で、株式会社ソア代表の川畑由美さん。「PTAの原点を見つめ直す機会に」とのあいさつで幕を開けました。



講演は、タレントで「一般社団法人おせっかいだー」代表のレモンさんによる「持続可能なハッピーPTA」。全国をキャンピングカーで巡り、地域と学校をつなぐ活動を続けるレモンさんが、笑顔あふれる語り口で「おせっかいは人を幸せにする」と語りました。

「PTA不要論もあるが、子どもたちのために集う皆さんこそ、現代のスーパーヒーロー」という言葉に、会場から大きな拍手が送られました。



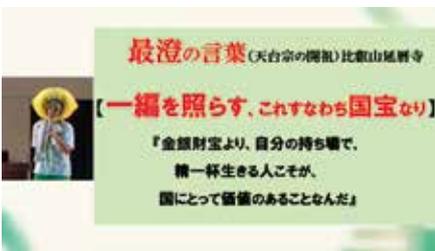
ました。

講演中には、参加者全員が立ち上がり、笑顔で「アイタッチ」を交わすワークも行われました。互いに目を合わせ、感謝を伝える時間に、会場全体が温かな空気に包まれました。「人とのつながりを感じるからこそ、PTA活動の原点であり、持続可能な活動への第一歩」とのメッセージが印象的でした。



最後にレモンさんは、「おせっかいをする勇気が、誰かの笑顔をつくる」と語り、会場は笑顔と拍手でいっぱい。

笑いと感動にあふれた講演は、PTAの意義とつながりの力を改めて感じる貴重な時間となりました。



保護者の皆様へ

鳥取県高等学校PTA連合会加盟校の生徒様限定※1

令和7年度版



ご加入はこちらから

ハイスクール24

(団体総合生活保険)

ご加入のおすすめ

割引
約**59%**
適用(※2)

※1 本保険の対象となる方(被保険者)ご本人としてご加入いただける方は、全国高等学校PTA連合会に属する鳥取県高等学校PTA連合会加盟の高等学校に在籍されている生徒の方となります。
※2 団体割引30%、損害率による割引35%、大口団体契約割引10%(傷害補償のみ)を適用。
損害率による割引は、天災危険補償特約には適用されません。

自転車通学への備えは大丈夫ですか？

「ハイスクール24」は、自転車事故にも備えられます！



自転車事故による死傷者数が増加！

およそ7分30秒に1件！

(警察庁「令和5年中の交通事故の発生状況」から作成)



損害賠償金が高額化！

9,000万円を超える損害賠償命令も！

(神戸地方裁判所 平成25年7月4日判決)

「ハイスクール24」ならこんなに安心！

相手への賠償

自転車で他人にケガをさせた！



自転車による事故をはじめ「日常生活」の賠償事故を**国内無制限・国外1億円**まで補償！※1、2

ご自身のケガ

自転車で転んでケガをした！



自転車事故によるケガをはじめ「日常生活」のケガも補償！※3

安心のお手続き

スマホで完結！



ご加入は**ネットでかんたん**お手続き！**自動更新**だから、更新時はお手続き不要！

※1 被保険者(お子様)本人に加え、被保険者本人の親権者、被保険者本人の親権者の同居の親族・別居の未婚の子まで補償します。
※2 保険の対象となる方またはそのご家族が、補償内容が同様の保険契約を他にご契約されているときには、補償が重複することがあります。
※3 ケガに対する補償の内容は、プランによって異なります。詳しくはパンフレットをご確認ください。

そのほか充実の補償内容はパンフレットをご参照ください

パンフレット
(高校生総合保障制度のご案内)
はこちらからアクセス



制度・お手続きに関するお問い合わせ先(東京海上日動火災保険株式会社 代理店)

株式会社東京海上日動パートナーズ中国四国 鳥取支社(受付時間 月～金 AM9:00～PM5:00)
住所:鳥取市南隈541 トリニティーモールBゾーン1F TEL:0857-32-8825

この保険は、一般社団法人全国高等学校PTA連合会を契約者とし、団体の構成員等を保険の対象となる方とする団体契約です。保険証券を請求する権利、保険契約を解約する権利等は原則として契約者が有します。本チラシは団体総合生活保険の概要をご紹介します。ご加入にあたっては、必ず「重要事項説明書」をよくお読みください。ご不明な点がございましたら、お問い合わせ先までご連絡ください。

引受保険会社  東京海上日動火災保険株式会社

25TC-004349 令和7年12月作成